

# 清水遺跡 神明園地区

名取市の北部と仙台市の南西部との境界付近の名取川によって形成された、標高9m前後の自然堤防上に立地しています。東北本線名取駅の北西1.8kmの地点に位置し、名取市田高字神明地内に所在しています。

この地区は、昭和56年に発掘調査され、弥生時代の焼土遺構が発見されています。その中から出土した弥生土器から、弥生中期末から後期初頭にかけての遺構とされています。また、出土した土器には、当時、福島県浜通りに多く、宮城県内からは発見されていなかったものが含まれ、この発見は貴重な成果となっています。

この地区出土の弥生土器の文様などからは、同時施文により平行する沈線を持つ土器（十三塚式）が主体となる文化圏の北への伝播と、交互刺突文や磨消縄文などを持つ土器（天王山式）を主体とする文化圏の南への伝播が、ぶつかり融合しあったようすが伺えます。

## 原遺跡の平成9年度仙台観光遊技場建設に伴う調査地点

平成9年度に行われたこの地点の発掘調査で発見された主な遺構は、土器棺墓です。土器棺墓は、弥生中期のものが15基発見され、この地点に墓域が形成されていたことがわかりました。弥生時代の土器棺墓がまとまって検出された例は、県内でも少なく、同時代の墓制を考えるうえで貴重な資料となっています。

## 原遺跡の平成9年度カインズホーム建設に伴う調査地点

平成9年度に行われたこの地点の発掘調査では、遺物包含層や旧河川などから、弥生前期から中期の遺物が出土しています。特に遺物包含層からは、多量の遺物が出土しており、ゴミ捨て場として利用されたようです。この発見からも、ここに隣接する区域に、この時期の集落が発見される可能性が非常に高くなっています。

II-1-④-a



II-1-④-b

土器棺墓（小児の遺体を埋葬した墓）のようす

II-1-④-b



II-1-④-c



II-1-⑤-b



II-1-⑤-d

遺物包含層で土器などが出土したようす

II-1-⑤-b

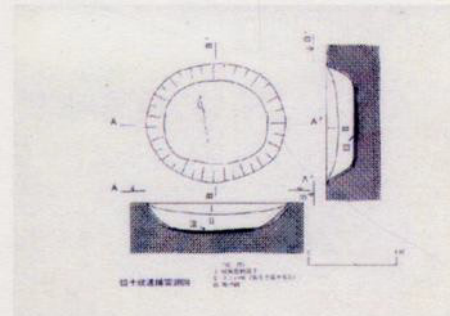


II-1-⑤-c



II-1-⑤-e

II-2-①



II-2-②



II-2-③

清水遺跡神明園地区出土遺物実測図

II-2-③